

新森中央公園に改称

以降、公園愛護会の事業推進の中で、植木市、大運動会(子供の日)、夏休みのラジオ体操、盆踊り、旭区民大会、公園祭りなどが毎年開催された。日本初の万国博覧会が千里で開催された1970年(昭和45年)頃は、高度成長期と相まって地域住民の増加により各催しの参加者も大変多く、盆踊りなどは6、7重もの輪ができ、非常に込み合った中で老若男女が踊りに興じ大盛況の様相であった。また7～9月の8が付く日には、公園の周辺にいつの程にか夜店が多数出るようになり、子供達で大いに賑わったものである。1972年(昭和47年)新森小路公園から新森中央公園に改称。

1981年(昭和56年)自動放送設備付きの時計台が新設され、翌年には地域の集会場を建設するため児童館が無くなり、1983年(昭和58年)に跡地の南西角に新森会館が竣工。同年公園東側に道端広場とゆずり葉の道が完成した。1987年(昭和62年)には、永年にわたり地域住民に親しまれてきた噴水池が大改造され、周辺も装いを新たにしている。現在の公園の姿となっている。〈原田〉

新森地区公園愛護会は、新森中央公園を核とする北・東・南・南小公園と計5つの連合組織が連合組織で現在会員数約2,700人。これまでに市民表彰をはじめ建設大臣賞、総理大臣賞、2005年(平成17年)には春の緑綬褒章を受章。

■参考文献:旭区史 新森中央公園愛護会のしおり



■新森地区公園愛護会 公園祭 於新森中央公園

装い新たな公園の姿



■ 現在の新森中央公園(写真:上田泰彦)